



▲7月12日(上津久礼)
増水した白川の水の勢いによってガードレールがなぎ倒され、道路も壊れるほどの威力があったと考えられる。



▲7月12日(下津久礼)
白川から流れ込んだ水は、ハウスや住宅地までも浸水させた。



▲7月12日(上中代)
床上浸水により、泥で汚れた量などの家財道具が片付けられる。



▲7月12日(曲手)
増水した水が白川沿いの道路を壊し、水田の中にもう1本の川をつくっていた。

被害状況報告

人的被害	死者	0人
	行方不明者	0人
	重傷者	0人
	軽症者	0人
住宅被害	全壊	0棟
	半壊	0棟
	床上浸水	27棟
	床下浸水	52棟
	一部破損	1棟

この度の九州北部豪雨の被害に遭われました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

菊陽町では、人的被害はありませんでしたが、床上・床下浸水や農地、道路冠水などの被害に見舞われました。町内各地域での災害復旧活動では、地域住民の皆様が力を合わせて取り組んでいただき、ありがとうございました。

今後、町としましては、国や県などの関係機関と連携しながら、災害復旧に取り組んで参ります。

また、今回の教訓に学び、住民の皆様の安全・安心な生活を守るため、町の危機管理体制をより強固なものにするとともに、地域との連携を図って参ります。

平成24年7月 九州北部豪雨

▲7月12日(馬場楠)
大雨により水量が増し、白川を濁流が流れる。茶色くにどった川は大きなしぶきを上げ、馬場楠堰には木々も引っかかっている。

災害復旧に向けて

今回の九州北部豪雨では、農業関係でも大きな被害が出ています。特に、白川の水が溢れ、冠水や流失・埋没した農地が約62ha、農業用施設(用排水路、農道など)の被害が51カ所あります。

今後、国の農地・農業用施設災害復旧事業に基づき、測量設計を実施し、国の査定を受けて復旧工事を行う予定です。

菊陽町でも大雨に見舞われ、水量が増した白川は、沿岸の農地や住宅地に流れ込み、床上浸水、床下浸水、道路冠水や下水道施設への被害をもたらしました。

経験したことの無い大雨
7月12日未明から、熊本県内は広い範囲で記録的な大雨に見舞われました。これは、停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込んだために起こったといわれています。熊本地方気象台は「これまでに経験したことのないような大雨」として、最大級の警戒を呼び掛けました。



始めませんか？

今、全国的に「電力不足」や「節電」が叫ばれています。しかし、一言に節電といっても、私たちが何をどうしたら節電につながるのでしょうか。また、それは難しいことなのでしょうか。今回は、節電の必要性をあらためて知り、気軽にできる節電方法をご紹介します。

テレビを見ないときは消す



3

テレビを見ていないのにつけたままにいませんか。必要のない時は消しましょう。リモコン待ち状態でもエネルギーを消費しています。消す時は主電源から消し、長期不在時はコンセントを抜くようにしましょう。

待機電力をカット



6

長時間使わない電化製品はコンセントを抜くことで、待機電力を削減できます。また、節電タップを使用するのもお勧めです。まとめて節電でき、必要な機器の部分だけスイッチを入れて通電させることもできます。

日中は不要な電気を消す



2

日中は不要な照明を消し、夜も照明をできるだけ減らしましょう。人のいない部屋や廊下はこまめに消灯し、必要最小限の灯かりを心掛けましょう。また、LED電球を使用すると、電力を抑えることができます。

炊飯器でまとめて炊き



5

炊飯器は保温するときに電力を使うので、ご飯は1日分をまとめて炊く方が効率的です。余ったご飯は冷蔵庫や冷凍庫に保存し、電子レンジを使って温めた方が、保温しておくよりも省エネになります。

エアコンは28℃を目安に



1

エアコンの設定温度を28℃にし、2週間に1回はフィルターを掃除しましょう。また、無理のない範囲でエアコンを消し扇風機を使用したり、すだれや遮光カーテンで窓からの日差しを和らげたりすることも効果的です。

冷蔵庫の中を整理する



4

食品を詰め込み過ぎると、冷やすときに多くの電力を必要とします。また、どこに何が入っているかを分かるように整理すると、扉の開閉時間が短くなり、より省エネにつながります。

なぜ節電が必要なのか

東日本大震災以降、電力の供給が落ち込んでおり、全国的に節電が叫ばれています。九州電力管内でも例外ではありません。原子力発電所の運転停止により、電力の供給力が不足し、今夏の電力需給はとも厳しい状況になることが予想されます。今年は電力供給の厳しかった一昨年に比べて10%以上の削減目標が掲げられています。節電には、電気の使用を減らすことが一番効果的なのです。

節電する時間

冷房の使用が増える夏場は、特に電力の需要が大きくなります。そこで、9月7日までの平日午前9時から午後8時の間、その中でもピークである午後1時から午後5時の間は、特に節電を心掛けましょう。

使い方を見直そう

家庭には、消費電力が大きい電化製品があります。まずは、電化製品の使い方を見直してみませんか。資源エネルギー庁によると、一般住宅の電力使用量は、エアコンが58%を占めています。室内の温度が高い状態でエアコンのスイッチを入れると、その室温を冷やそうと大きな電力がかかります。エアコンをつける前には、まず窓を開け、換気をして熱を逃がしてから使しましょう。

できる範囲で節電を

さまざまな節電方法がありますが、暑さを我慢しすぎると熱中症の危険性が高まります。「節電しなければならぬ」と堅く考えず、できる範囲で、できることから始めてみましょう。私たちの一つ一つの行動が大きな力になるのですから。

